

強化戦略計画策定に向けた論点整理について
(企画戦略担当)

1. 今後の強化活動における目指す姿と目標設定について

(ア) 世界の強豪国との差が広がる中、我が国のローイングコミュニティは強化活動において何を目指して(目指す姿)取り組むのか。

日本選手が厳しい練習や鍛錬の末、世界のトップレベルのクルーと競い合う姿は多くの人を魅了します。

ローイング競技は長い時間をかけて肉体と精神の資質を高める活動です。それゆえ、オリンピックを目指して挑戦する選手には、艇を速く進ませることだけでなく、人として尊敬され、相互理解のうえ、お互いに高め合える存在であることを期待します。まさにオリンピズム（卓越、友情、尊重）、ローイングに置き換えれば「オアズパーソンシップ、一艇ありて一人無し」という精神を体現する集団であること、これが何よりも大切なことだと考えます。

ローイング競技の魅力や価値を高めるための強化活動であってほしいと思います。

(イ) 上記の目指す姿を実現するため、2028年ロサンゼルス大会ではどこに目標を定め、何の種目を強化するか。また各種目の優先順位をどう考えるか。

- オリンピック競技(クラシック・コースタル)
- パラリンピック競技(パラローイング)

選手個々の力で戦ってきたこれまでのやり方ではなく、組織（ひいては日本コミュニティ）として挑戦することが重要です。2028年LA大会では、過去最高の成績（オリでは5位以上、パラでは8位以上）を目指すことが望ましいと考えます。

オリンピック競技はチームボート、パラリンピックは競技者の障害の種類や程度にもよる為、現在活動している選手が最大限力を発揮できる種目での挑戦を期待します。

(ウ) 設定した目標を踏まえ、強化活動を担うコーチ並びにマネジメント体制をどう考えるか。また体制整備において、優先すべきことや今後の課題についてどのように考えるか。

身の丈に合った体制と活動にするべきです。強化活動を真に必要な取組に絞り、全体をスリム化する必要があると思います。真に必要な取組とは、トップレベルの引き上げです。今やるべきことは、タレント発掘や次世代の育成ではなく、メダルを目指すための強化に集中すべきだと思います。

います。

また、強化活動に従事する人材（ハイパフォーマンスディレクター、ナショナルコーチ、スタッフ、トレーナー）の選定および評価制度など、体制整備におけるルール作りが課題だと思います。

2. 選手の発掘・育成・強化の計画について

(ア) 2024強化総括では、行き過ぎた個の重視による弊害について指摘がなされたが、JARA の目指す姿や重点種目の特性を踏まえ、日本代表クルーの育成及び選考についてどのように考えるか。

シングルスカルを派遣するのであれば SBS による水上パフォーマンス評価でも構いませんが、複雑な要素が絡むクルーの育成においては、成熟したクルーを作るプロセスに重きを置き、伴走する優秀な指導者を選ぶ必要があります。育成及び選考においては、選手個人の身体能力だけでなく、選手個々の資質（目標設定、思考、キャリア構想等）を高め、資質とパフォーマンスを兼ね備えた人材を選考するというやり方もあると思います。

(イ) オリンピック競技では、ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化が不可欠である。ローイングにおける基本的な能力（漕力）を向上させるための育成プログラムはどうあるべきか。

① 我が国の現状と課題を踏まえたトレーニング・プログラムの改善・普及

トレーニングおよびローイングの原理原則を再定義する＝競技者育成プログラムを現代版に改定する。トレーニングの目的や意義を選手および指導者ともに正しく理解し、実践することが重要であると思います。

② パフォーマンスの最大化、アッパーリミットの引き上げに向けた施策

選手が自分の殻を打ち破り、チームのパフォーマンスを最大化するためには、日本代表チームのカルチャーを変えるべきだと思います。これまでの日本代表チームは、選手自身が自分を否定したり、相手に遠慮したり、自分の意見を素直に言えないような雰囲気があったと聞きます。このような環境下では、いくら強い選手でものびのびと活動することは出来ません。一人ひとりの行動や思考の背景にある組織文化を見直し、選手や指導者が相互理解の下で対等な関係を築くことが出来る土壌づくりが必要ではないでしょうか。

日本代表として選ばれた選手には、競技を通して自信と気概、他者との関係性を構築する能力を身に着け、はつらつと活動をしてもらいたいです。

(ウ) パラリンピック競技に関しては、アスリートの発掘が最も重要な課題となるが、既存プログラム(J-STAR)に加え、都道府県協会や他の競技団体との連携

の在り方をどう考えるか。

各都道府県協会にパラローイング担当部門を設けていただくような働きかけはできないでしょうか。パラローイングに対する情報連携や指導者育成、ノウハウ等の横展開ができるようなネットワークづくりが必要ではないか。

3. 選手強化に必要な環境整備について

(ア) ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化に向け、JARA が担う役割の範囲についてどう考えるか。また、選手の所属団体や指導者との連携をどう図っていくべきか。

JARA の役割や権限を明確にすべきだと思います。ヘッドコーチ不在の現状を考えると、JARA は方針を定め、派遣クルーを選考する役割に集中した方がよいと感じています。

(イ) 競技力強化のための日本式メソッド(トレーニング・プログラム、技術・戦術)の確立に向け、JARA 内にどのような体制を整備する必要があるか。

強化本部に技術委員会を設置し、強化活動に関する知見や情報を蓄積する機能を持たせることで、客観的な確認・評価ができるようになると思います。またナショナルコーチの育成、強化メソッドの普及を担う機能も必要です。

※指導者資格で学ぶことは指導者として最低限有しておくべき知識や理解です。これとは切り離れた高度な専門人材の育成が必要と考えます。

(ウ) 海の森水上競技場や戸田ボートコースの利用実態やニーズを踏まえ、トレーニング拠点(国内外)に求められる機能や設備。

現状戸田を活動拠点としている選手・チームが多いことから、戸田は日常的なトレーニング拠点、海の森水上競技場は非日常的な強化拠点と位置付ける。

海の森水上競技場は、競技転向や日本代表候補の発掘を行うための恒常的な機能を持たせることで、選手プロフィールやフィットネスデータ、トレーニングデータ等の情報を集約でき、医科学研究や発掘・育成プログラムの開発に繋げることが可能となる。またほかにもローイングの魅力を発信する拠点として位置付けることも重要で、日本代表選手による社会貢献活動やスポンサー企業を対象としたイベント、体験会等といった企画も検討できるのでは。

さらに、国際的にも海の森水上競技場をアジアの強化拠点とし、国際大会の開催に留まらず、情報科学や研究等の知の集積地（例えば、ローイングが普及していない国の選手を集めたディベロップメントキャンプを開催し、運営や指導ノウハウを蓄積）とすることも考えられます。